

Prevalence and predictors of atrial fibrillation in Japanese patients with type 2 diabetes

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2022-07-07 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 大武, 幸子 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.20780/00033240

主論文の要約

Prevalence and predictors of atrial fibrillation in Japanese patients with type 2 diabetes

日本人 2 型糖尿病における心房細動の有病率およびそのリスク因子に関する

横断研究

東京女子医科大学内科学講座 糖尿病・代謝内科学分野

(指導：馬場園哲也教授)

大武幸子

Diabetology International

<https://doi.org/10.1007/s13340-021-00509-2> (doi:10.1007/s13340-021-00509-2)

【目的】

心房細動は臨床現場で最も高頻度にみられる不整脈の一つである。糖尿病患者では心房細動の合併リスクが高いことが知られているが、日本人糖尿病患者における心房細動の有病率や、心房細動に対する糖尿病患者特有のリスク因子については不明である。本研究は、まず日本人 2 型糖尿病患者における心房細動の有病率を推定し、一般集団と比較すること、さらに心房細動を合併とした糖尿病患者の臨床特性を明らかにすることを目的とした。

【対象と方法】

2004 年 1 月から 2005 年 12 月までに東京女子医科大学糖尿病センターを初診し、12 誘導心電図が記録された 2 型糖尿病患者を対象とした。心房細動は 2014 年の American Heart Association のガイドラインに従い、弁膜症性と非弁膜症性に分類した。Mantel-Haenszel 検定により、糖尿病患者における心房細動有病率を 2003 年に日本循環器学会が調査した日本人一般集団と比較した。多変量 logistic 回帰分析を用いて、心房細動および非弁膜症性心房細動の合併に関連する臨床特性を検討

した.

【結果】

対象患者は 1,650 名, 女性 588 名, 男性 1,059 名, 平均年齢は 60 ± 13 (標準偏差) 歳であった. 72 名 (4.4%, 95% 信頼区間 [CI]: 3.5-5.5%) が心房細動を有しており, 12 名 (0.7%, 95% CI: 0.4-1.3%) が弁膜症性心房細動, 60 名 (3.6%, 95% CI: 2.8-4.7%) が非弁膜症性心房細動であった. 性別の有病率は女性 2.5%, 男性 5.4% であった. より高齢の患者で心房細動全体および非弁膜症性心房細動の頻度が高い傾向であったが, 弁膜症性心房細動では年齢との関連を認めなかった. 日本人一般集団に対する糖尿病患者の年齢・性で調整した心房細動のリスク比は 3.47 (95% CI: 2.77-4.37) であった. 心房細動および非弁膜症性心房細動に有意に関連する要因は, 男性, 高血圧, 血小板数の減少であった. 血糖コントロールの指標である HbA1c, また冠動脈疾患や慢性腎臓病との関連は有意ではなかった.

【考察】

男性, 高齢, 高血圧合併糖尿病患者で心房細動のリスクが高かったことはこれまでの研究と同様の結果であった. 先行研究では HbA1c と心房細動との関連について一定の見解が得られていない. 本研究で冠動脈疾患や慢性腎臓病と明らかな関連がみられなかった理由については, 心房細動患者の絶対数が少なく検出力が不十分であった可能性がある. 本研究のその他の限界として, 一施設の横断研究であることや, 発作性心房細動の見逃しの可能性が考えられた.

【結論】

日本人 2 型糖尿病患者における心房細動有病率は 4.4%, 年齢・性調整後の有病リスクは一般集団の約 3.5 倍であった. 高齢, 男性, 高血圧, および血小板数の減少が糖尿病患者における心房細動の独立した予測因子であった.